

光と風の大地

～北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」～



今月の表紙：豊かな食生活を目指した料理教室
(紹介は8ページ)

2018.2
No.
508

より豊かな農家の食卓を目指して

JJA料理教室に20人参加！

JJA（小野寺俊幸組合長）は12月10日、「農家の食卓をより豊かに」を目的に組合員を対象にした料理教室を「ファーマーズハウスうえりん」で開催しました。

会場には組合員家族と常呂自治区と網走農業改良普及センター、各生産組織の代表など20人が参加しました。講師は北見市内で絶大な人気を得ている「Barよつて

けや」の前田利幸オーナーシェフと黒坂洋平バー「テンダーオー」の二人。

食材は常呂産のニンニクや馬鈴薯、南瓜、玉葱などを使い、「ミネストローネ」「マリネ」「パエリア」「ボテトサラダ」の4品に挑戦。

完成したカクテルを試飲することも出来、その独特な美味しさに感激されていました。

参加者の皆さんは「常呂の食材をプロの技で素敵な料理へと導く料理教室に参加出来、とても楽しく心豊かなひと時を味わうことが出来た」と話し、次回の開催を心待ちにしながら料理教室を終えました。



サングリアの作り方を学ぶ参加者のみなさん



試食をしながら、楽しく行われました



料理のポイントを聞き、メモを取っていました



レクリエーションを交えながら、笑顔の絶えない料理教室となりました



黒坂バーテンのカクテルも美味しく頂きました

北海道農業と都市型農業の違いを感じ、見聞を広めることで今後の當農に活かすことを目的に、昨年度から3年計画でスタートした道外研修。先月号に引き続き、研修内容を報告致します。

都市の消費者や
青壯年部との交流

3日目は見事な晴天の下、練馬区「光が丘公園」で毎年開催されているJA東京あおば農業祭に参加しました。

本年は主にJAごとの販売ブースで農産物や加工品の販売の他、JA東京あおば青壯年部の催し物「餅つき」のお手伝いを行いました。

正直、当JAの「収穫祭」とは比べものにならない位の大規模で、常に人の波でした。その様な中、当JAの販売ブースでは当初予定していた玉葱と馬鈴薯の1日の販売

北海道農業と都市型農業の違いを感じ、見聞を広めることで今後の當農に活かすことを目的に、昨年度から3年計画でスタートした道外研修。先月号に引き続き、研修内容を報告致します。

数量を大幅にクリアしました。生産者側として、実際に地元以外の消費者と直接ふれあうことができ、お買い上げ頂いた方から笑顔で「ありがとうございます！」と言葉をかけて頂く



青壯年部と一緒に餅つきを行う部員の方々

JAの榎本高一組合長を始めとした多数の方々に参加頂きました。お互いの組織活動の違いなどを学んだ中で、榎本組合長からも力強いお言葉を頂き、普段自分たちが行っている北海道農業という固定観念だけでも農業を計ってはならないことを実感しました。

最終日は、有楽町にある北海道の様々な加工食品を販売しているアンテナショップ「どさんこプラザ」を視察。日曜日ということもあり、店内はオープン間際から大盛況でした。

青年部 道外研修

～後編～

常田町農協青年部

部長 猪野間 尚人

農業の絆を再確認

今回の4日間の研修を通して、様々な場面で「絆」の強さを再確認することが出来ました。地域や業種は違つても、日本の農業の異なる発展



農業に対し、より意欲の高まつた研修となりました

の為に向かつて進んでいる方向は皆同じなんだと感じ取れる良い機会となりました。この経験を、今後の農業経営や青年部事業に活かし、足踏みすることなく新たな可能性を見出していくければと思います。

農業経営の基盤強化を目指して

J A ところの役員10人は、12月1日から4日までの間、滋賀県のJ Aや農業生産法人への視察研修をして参りましたので、主な視察内容をご報告します。



●新鮮な野菜を使った加工品を販売している
「みにキッキン」

J Aグリーン近江は、滋賀県内では最大のJ Aで、直売所「きてかーな」は昨年7月にオープン。年々増加している准組合員を「地域農産物の第一の消費者」として位置づけ、多様な農業者の生産物を供給し地域住民への農業理解と新たな産地育成につなげていくことを目的に設置されました。出荷組合員は1,800名で、販売高6億円を目指しています。直売所の維持費は人件費も含め7,000万円程度ですが手数料と調理加工販売の「みにキッキン」での

J Aレーエク伊吹管内の旧長浜農協の地区を対象とする法人で平成7年に設立され、ほぼ100%農協出資（現在2,000千円）による有限会社となっています。「認定農家・中核農家で農業」に意欲のある者と連携しながら効率的農業経営を目指し、農業の活性化と安定化を目指す」さらに「當農に困っている農家の相談に乗り、農業経営の規模拡大を希望する農家の効率的な農業経営の手助け」この2点に重点を置いた組織として設立されました。

設立当時の地区内には10ha規模の農家が50戸で、他は数10ha程度の農家ばかりであったそうです。管内をエリア分けし、そのエリアの中には大規模農家を核として

耕作農地は55ha（水田40ha・転作10ha・不耕作地5ha）ですが暗渠排水工事や区画整理を行い耕作地（不耕作地の解消）の拡大に努めています。

当初は作業受託を中心に行つてきましたが、借受地による生産販売に重点を置いて収益の向上に努めていました。研修生の受入は当初行つていませんでしたが、現在は従業員として9名雇用し、技術の習得

◎JAグリーン近江 「きてかーな」

売り上げで賄うことが出来ています。同直売所は地域住民の新鮮な農産物と惣菜品の供給店舗の形態から食事時間帯には大勢のお客さんで賑わっておりました。

◎有限会社 グリーンパワー長浜

J Aレーエク伊吹管内の旧長浜農協の地区を対象とする法人で平成7年に設立され、ほぼ100%農協出資（現在2,000千円）による有限会社となっています。「認定農家・中核農家で農業」に意欲のある者と連携しながら効率的農業経営を目指し、農業の活性化と安定化を目指す」さら

に「當農に困っている農家の相談に乗り、農業経営の規模拡大を希望する農家の効率的な農業経営の手助け」この2点に重点を置いた組織として設立されました。

当初は作業受託を中心に行つてきましたが、借受地による生産販売に重点を置いて収益の向上に努めていました。研修生の受入は当初行つていませんでしたが、現在は従業員として9名雇用し、技術の習得

に当たっています。

経営としては、独自の責任契約制を導入し目標達成状況により報酬を決定する方式を導入し、人件費・償却費等すべてを賄い、剩余金も出ている状況で、J Aからの経営支援は一切ないということでした。

J Aが出资するこの法人事業の利点は①農作業の受託をすることにより、離農者と農協との繋がりが維持出来る。②大規模農家とJ Aの連携がうまくいく（農地の集積）などのメリットが高いとのことでした。



●経営方法を説明する(有)グリーンパワー長浜

◎タキイ研究農場 付属園芸専門学校

1947年開校で定員60名全寮制の男子校です。園芸本科のみの1年制ではあります。が卒業生の中から園芸専攻科（1年制・20名）への進級が出来るシステムとなっていました。

この学校は当J A販売課の高田悠作職員が学び、今年も1名、昨年春に採用した職員が就学休職して学んでいる学校です。



●野菜ごとに細かく区分されている試験圃場

この学校の教育目標は、研究農場における品種の研究開発・栽培技術を実際に体験し、園芸に関する基礎知識や栽培技術を習得することとし、次代の農業後継者や園芸技術者として農業を支え発展させる人材の育成を目指している学校です。

当日はあいにくの雨模様でしたが30haある試験圃場には、秋冬野菜が細かく区分されて植付けられており、合羽を着た生徒が調査にあたっていました。出資金4,480千円（現在13,000千円）構成農家戸数56戸でスタートし、現在の農地は水稻19.8ha・小麦17.1ha・大豆18.2ha・露地野菜1.4ha・ハウス野菜0.2haの合計56.7haを作付しています。設立当時の地区は、田畠が1,000筆もあり1戸当たり75a程度で区画整理は皆無に等しく、「酒人ふあーむ」が中間管理機構を通し土地を借り受け区画整理を行い當農の効率化を図つていました。構成員は全て兼業農家で年齢・作業能力に応じた役割分担をし、構成員のやりがいを創設しながら集落全員の参加によって地域の農業と農地を維持しています。また、独自のグループ体制で組織を運営しており①オペレーターグループ②なごやか営農グループ

◎農事組合法人 酒人ふあーむ

高齢化・後継者不足が深刻化し、総兼業の水田集落の担い手として、集落1農場方式による営農を実現するため、平成14年に設立されました。

出資金4,480千円（現

在13,000千円）構成農家戸数56戸でスタートし、現在の農地は水稻19.8ha・小麦17.1ha・大豆18.2ha・露地野菜1.4ha・ハウス野菜0.2haの合計56.7haを作付しています。

設立当時の地区は、田畠が1,000筆もあり1戸当たり75a程度で区画整理は皆無に等しく、「酒人ふあーむ」が中間管理機構を通し土地を借り受け区画整理を行い當農の効率化を図つていました。構成員は全て兼業農家で年齢・作業能力に応じた役割分担をし、構成員のやりがいを創設しながら集落全員の参加によって地域の農業と農地を維持しています。また、独自のグループ体制で組織を運営しており①オペレーターグル

ープ②なごやか営農グループ④やすらぎ営農グループなどがあり、それぞれ作業賃金が設定されておりました。しかし、やすらぎ営農グループは、高齢者の生活の余暇の中での作業としているため賃金はありませんでした。

「酒人ふあーむ」は、企業並みの収益を上げることではなく、地域住民全員参加で収益よりも地域の農地を保全（不耕作地ゼロ）し集落を維持しております。

今回の役員研修は、法人経営を主に研修しましたが、今後TPP体制の中様々な経営体の運営が想定されます。今回の中の研修を通じ今後の地域振興等の検討資料とさせていただきたいと思います。



●地域農地の保全を行う「酒人ふあーむ」



●(有)グリーンパワー長浜にて

各作物の 精算方法について学ぶ

第11回みのりセミナー

JJAところ（小野寺俊幸組合長）は1月14日、女性農業者を対象にした「みのりセミナー」の第11回の講習会をJA会議室で開き、6人が受講しました。

午前の部は、「農業簿記について学ぶ」と題し、網走農業改良普及センターの木村恵一主査を講師に迎え、前回学習した「貸借対照表」と「損益

計算書」の復習を行い、例題を参考に、実際の取引仕訳と総勘定元帳への記帳の仕方を学びました。

午後の部は、「作物の精算方法について」と題し、販売課の佐藤課長と名越係長が講師となって、農産物や青果物の精算方法、さらに共同計算販売と受託販売の制度や仕組みなどが説明された後、実際に

秋まき小麦の被覆肥料の 施用効果について発表

～オホーツク管内青年農業者大会～

常呂町
4H
クラブ

常呂町4Hクラブ（寺町太智会長）は、12月15日に端野町公民館で行われたオホーツク総合振興局管内青年農業者大会にクラブ員15人が参加しました。

始めに行われたアグリメントセージの発表に「僕の挑戦したい3つのこと」と題して同クラブの馬渕修氏が発表し、



調査結果を発表する小野寺氏

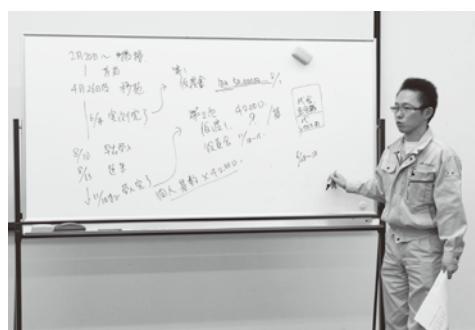
見事最優秀賞を受賞し、北海道青年農業者大会のオホーツク管内代表として出場することになりました。

次に行われたプロジェクト発表では、同クラブの小野寺駿季氏が「時短に挑戦！～秋まき小麦の被覆肥料の施用効果～」と題し、輪作体系を支える主要作物である秋まき小

麦の品質収量向上のために行われる追肥作業の省力化の図つた被覆肥料の効果について発表しました。

本大会を通して、管内の農

業者と交流を深め、農業振興に努めるための意欲向上につながる意義深い会議となりました。



精算方法について説明する名越係長

ちかっと発信

JAマンコーナー

発信No.26

JJA職員からのオススメをジャンルにこだわらずに紹介するコーナーです。

「アイスショーの魅力」

生産部 販売課
樋渡 由紀



札幌で開かれた、
フィギュアスケート選手権会場にて

この時期にはたくさんの方が、テレビを通してお茶の間観戦していると思います。私がフジユースケートを好きになつたのも、長野五輪をテレビ中継で見ていたことに始まります。そこから数年を経て、試合やオフシーズンのアイスショーに足を運ぶ機会に恵まれるようになります。試合観戦する中で、テレビ画面では感じられなかつた様なことに気付き、新たな魅力を見発見することができました。リンクを縦横に駆け抜けたスピード感の違いや、氷の音が一つ一つに迫力を感じられるこ

と。選手の個性が現れる部分でもあり、そうした観察をするとも楽しみの一つです。試合観戦の最大の魅力は会場全体を包む緊張の空気を、応援する選手

の動きを繰り広げる羽生選手。今シーズンのフリー・プログラムでも、氷に手をつきながら低い姿勢で滑る動作がありますね。これを「ハイドロブレーディング」といい、後半の見せ場の一つになります。ぜひ先取りして見ておきましょう！



行事予定表

2月1日(月)～2月29日(月)

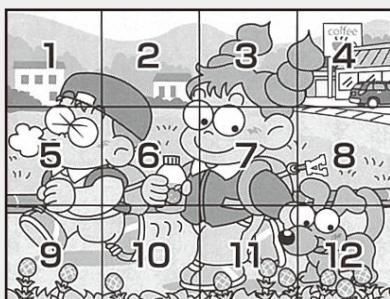
2月 1日(月)	オホーツク女性協研修大会 ～2／2
2月 6日(土)	閉組日
2月10日(水)	第65回 青年部通常総会
2月11日(木)	建国記念の日
2月13日(土)	閉組日
2月15日(月)	常呂町甜菜対策協議会総会
2月17日(水)	第1回定例理事会
2月18日(木)	第9回常呂町小豆生産組合 通常総会
2月20日(土)	閉組日
2月22日(月)	加工馬鈴薯生産組合通常総会
2月24日(水)	地区別懇談会～2／25
2月27日(土)	閉組日

第11回理事会報告

- 平成28年度内部監査計画の策定について
原案のとおり策定することで承認されました。
- 組合員の出資金譲渡について
原案の通り出資金譲渡について承認されました。
- 畜産近代化リース事業に係る再貸付について
原案の通り再貸付することを承認されました。

〈報告事項〉

- 第3四半期監査報告
- 内部監査報告について
- 納税猶予の保証解除について
- 生活改善資金（変動型）の金利変更について
- 平成26年産共計でん粉の本精算について
- 平成26年産小豆の本精算について
- 平成26年産共計小麦の追加精算について
- 平成27年産小麦の追加精算について
- 共同給油所に係る固定資産の取得計画について
- 組合員の加入・移動について
- 労働組合妥結結果について
- 農業委員会開催結果について
- 第8次農業振興計画の推進状況について



応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えと広報誌へのご意見・ご感想を記入の上、FAXにてご応募下さい。

抽選で、JAとこの特産品「つぶあん」と「お赤飯の素」をセットでプレゼントします。

先月の当選者・解答

1月号のクロスワードパズルの答えは「カンツバキ」でした。
抽選の結果、次の方々が当選しました。おめでとうございます。

田渕 浩基さん（豊川）※（ ）内は地区名です。

まちがい探し

右のイラストには左のイラストと違う部分があります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探しましょう。

読者の声

★毎回楽しくチャレンジしています。

(豊川地区・田渕浩基さん)

たくさんのご応募
お待ちしております！



● 講師をして頂いた木村主査(右)

全ての料理に小豆を使用するためその料理に合った小豆の「ゆで方」や「調理方法」を学び、参加者は「新しい料理を習得出来た。これからは家でも作つてみたい」と話していました。

身近な農産物を使用し新たな料理の活用を学ぶこと

JJAといふ女性部（岡田真理子部長）は12月8日、キッチンスタジオ『うえる』で、チソの「小豆」と「馬鈴薯」を使用した加工実習を行ない、部員16人が参加しました。当日は、網走農業改良普及

新たな知識を得る料理



● 完成した料理を前に、みんなで記念撮影！

JA職員 長期勤続者表彰

J A本部事務所の仕事始めの1月7日に、役職員が出席した新年交歓会が行われ、1名の長期勤続者が表彰されました。



武田一宏

〈20年表彰〉

今月の表紙：豊かな食生活を 目指した料理教室

料理教室に参加した13名の農村女性の皆さん、自ら生産した農産物がプロの技で「美味しさを増した料理が完成するのか」と、一つ一つの調理に目を輝かし、そして大事なポイントなどをメモに書き込んでいました。料理完成後に「豊かな食」を堪能されましたが、是非とも今回の体験を活かし、食卓に反映されることを節に願うものです。

編集後記

- 先日の暴風雪では皆さん除雪作業などに追われてお忙しいこととは思いますが、風邪など体調は崩されていませんか？最近は、インフルエンザが流行っていますので体調管理には十分お気をつけください。
 - 常呂町に住み始めてもうすぐで1年になりますが、吹きだまりの凄さに驚きを隠せませんでした。また、除雪をした次の日には筋肉痛に襲われたので、適度な運動をしないといけないと感じました（笑）

《営農企画課：広報担当》